

分散協調型エネルギー管理システムのための のエネルギー需要モデルの開発

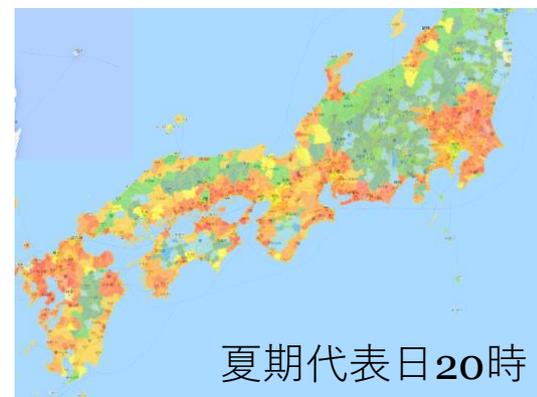
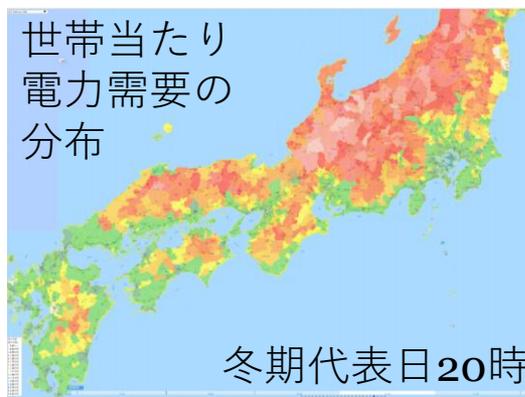
大阪大学 大学院工学研究科 山口 容平

目的 住宅のエネルギー需要を高い時空間解像度で推計するアプローチの確立

内容 本研究は国勢調査等の社会調査データから日本全国の世帯を乱数生成し、生成した模擬人口を用いた生活行動、エネルギー需要シミュレーションを行い、住宅のエネルギー需要を高い時空間解像度で推計するアプローチを確立した。

結果 世帯構成、気象条件、住宅・設備の集積状況が重要な因子となりエネルギー需要が形成されていることが明らかになった。

利用した計算機 OCTOPUS
ノード時間 40,000時間



可視化はNICT村田健史氏グループによるものである